

平成 年 月 日

新宿区 長

法 人 名 特定非営利活動法人全国日本語教師会
 所 在 地 東京都新宿区新宿 1-4-13 溝呂木第二ビル 3F
 （フリガナ）サトウミキオ
 代表者氏名 佐藤幹雄

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	夏休み親子読み聞かせ国際教室
実施日時又は期間	5月・6月 チラシ作成（日本語・中国語・韓国語） 各学校・しんじゅく多文化共生プラザ等に設置 広告による広報活動 7月23・24・25・26・27日 日本語・読み聞かせ指導講座 7月30日～10日（土日除） 夏休み親子読み聞かせ国際教室 8月25日 国際交流パーティー
対象者の範囲及び人数	夏休み親子読み聞かせ国際教室の対象者 <u>日本語・読み聞かせ指導講座の対象者</u> 現在小学校にて外国人児童生徒に日本語指導を行う主に新宿区教員、および一般の主に新宿区民 6名 <u>夏休み親子読み聞かせ国際教室の対象者</u> 主に新宿区の外国人と日本人の児童生徒とその保護者 16名 <u>国際交流パーティーの対象者</u> 教室に参加した親子、指導者をはじめ、その他参加希望者（日本人教員、生徒、保護者）にも参加を募る。 30名
事業内容	『日本語・読み聞かせ指導講座』 全5日間 1回90分 日本語の教え方、読み聞かせの仕方について学ぶ 『夏休み親子読み聞かせ国際教室』 全10日間（7月30日～10日） 1時間目 主に外国人対象 日本語教室 2時間目 外国人と日本人対象 読み聞かせ ＊『日本語・読み聞かせ指導講座』に参加した人の中から正教員とし

	て採用予定。 『子ども国際交流パーティー』 8月25日 ・外国人の子どもによる作文発表 ・日本人・外国人の子どもによる絵本の音読 ・外国人の保護者による外国の絵本の読み聞かせ ・すいかたたき、福笑いなど日本語をつかった日本の遊び 活動の報告は簡易な冊子にまとめる。
具体的な活動状況	『指導員講座』 五日間にわたる講座を開催。親子教室教室長も聴講に参加。講座後の午後、受講者と教室長と一緒に広報活動（ダイレクトメールの発送作業）をした。 『読み聞かせ』 【教室長による打ち合わせ】 教員稼働・学習者募集・カリキュラム作成など、運営にかかわるすべての協議を教室長会議を開催し、行った。学校教員退職者を中心に構成された。計4回 【教員ミーティング】 授業にかかわる教員全員を集めてのミーティングを開催した。 【広報活動】 新大久保の韓国レストランを中心にチラシまき（数回） 大久保小学校への訪問 新宿区教育委員会への訪問→学校交換便によるチラシの配布 小・中学校・関係組織へのダイレクトメールの発送 協力者を募るチラシの発送（日本語教育に関心を持つ方々） 各国大使館へのダイレクトメールの発送 マスコミへのニュースリリース 【親子教室 開催期間中】 毎日教室長により、報告書が作成され、事務局に提出された。 読み聞かせでは「おおきなかぶ」で日本人と外国人の子どもがまぎって劇を行った。 『国際交流パーティー』 子どもたちによる作文発表や持ち寄りの料理で交流をした。
事業の成果	前年度までの『夏休み親子日本語教室』から一歩すすみ、地域の中の日本人と外国人が集団的に交流する場を設けることにより、互いが理解し認め合う機会となった。 また、この事業を通して、日本人も日本語を読み聞かせを通してふりかえり、日本文化を再発見することができた。外国人の子どもに理解できる絵本を選定するむずかしさがあり、今後の日本語を通じた交流活動の参考にすることができ、日本語ボランティア活動や読み聞かせ活動に発展性をもたらすことができる。 活動の報告は簡易な冊子にまとめた。配布までいたらなかったため、来年度の親子教室のボランティア募集を兼ねて配布予定。新宿区協働推進基金活動を地域に直接報告する機会とする。

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経 費	積算根拠（内訳）		金 額
	団体負担金			353,393 円
	参加費・資料代等	日本語・読み聞かせ指導講座 @15,000×6 人 親子読み聞かせ国際教室 @500×16 人		98,000 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金申請額 450,000 円		
	計			901,393 円
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費 目	決算額	内 訳	
	会議費	131,130 円	教室使用料@4,000×(10 日×2 教室+6 日=26 日) =104,000 教室使用料@4,000×3 日(打ち合わせ 3)=12,000 会議室使用料@5330×1 日（打ち合わせ 1）=5,330 資料コピー代@10×980=9,800	
	宣伝費	240,000 円	チラシ作成費（印刷代@4×20,000 枚=80,000、コピー代@10×1,000 枚=10,000） 広告費@50,000×1 件 新宿区協働推進基金活動報告・文集作成 500 部 （編集補助・冊子印刷費） 100,000	
	リース費	円		
	消耗品費	16,968 円	マーカー、紙、マスター代	
	謝礼	193,500 円	読み聞かせ指導講座講師@7,500 円×2 時間×3 日間=45,000 日本語・読み聞かせ講師@4,500 円×9 日間×3 人=121,500 @4,500 円×1 日間×2 人=9,000 読み聞かせ指導講座サポート@3,600 円×5 人=18,000 日本語教室サポート	
	人件費	169,200 円	（講座）@3,600 円×2 人×1 日=7,200 （教室・パーティ）@3,600 円×4 人×11 日=158,400 @3,600 円×1 人×1 日=3600 （4 時間/日：時給 900 円計算）	
	材料費	19,950 円	ひらがなカード@1,050×19	
	交通費	50,000 円	講師交通費@1,000×6 回（打ち合わせを含む）=6,000 日本語教師@1,000×3 人×10 日=30,000 教室長交通費@1000 円×2 名×7 回=14,000	
	その他諸経費	80,645 円	郵送料 往復はがき@100×190 件=19,000 メール便 27,155 円（240 件）、8,540（97 件）、950 円（1 件） 新聞折り込み 25,000 円	
	助成対象事業費（小計）	901,393 円		
	余 剰 金	円		
	助 成 対 象 外 事 業 費	円		
事 業 総 額			901,393 円	

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	・参加人数が目標に届かなかった。読み聞かせのカリキュラム作成や本の選定に時間がかかり、広報活動にうまく時間を割けなかったことと、募集時に「来日 1 年以内」を条件にしたためだと考えられる。春に杉並区で行った親子教室では目標に近い人数を集めることができたため、来年度はそのノウハウを生かす。 ・読み聞かせでは作品を劇として上演するなど、外国人と日本人の子どもの交流という最大の目標が達成できた。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	・福祉課より中国からの帰国者 3 名の日本語教育について相談を受けた。 ・3 年間の親子教室開催実績が、行政や地域社会に認知され、日本語教育の相談を会にいただく機会が増えている。今後も地域社会の日本語教育分野の相談窓口としての役割を果たしたい。
新たに気づいた課題は何か。	・夏休み期間以外の継続的な日本語サポートのニーズがあること。 ・毎年開催される事業として、また、夏休みだけ海外から日本に来る子どもたちへの日本語学習の場として期待されていること。(来年はいつありますか、子どもがこの時期に日本に来るので、といった問い合わせが来ている。) ・教育をするだけでなく、認知活動・広報活動をする人材育成をしていくこと。
理解者や支援者が広がったか。	・世代や職域をこえたボランティアスタッフの交流ができた。 ・区内にある NPO 団体からボランティアを派遣していただくなどし、横のつながりができた。
事務局の執行体制は十分だったか。	・今年は新たに「教室長」を配置し、教室運営の責任ポストを設けた。また教室長と事務局のパイプ役として運営スタッフを置き、現場で起きる細かい出来事に対処できた。結果。事務局は運営のサポート機関という位置づけで、バランスよく活動することができた。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	・春休み・夏休み・冬休み親子日本語教室の開催。 ・外国人区民にアドバイスを行う区民を育成し、登録制度を作る。

その他	
-----	--

4 活動の成果

＊事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
＊参加者の意見なども報告してください。